

対象年度		令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		文化施設管理運営事業（アクロス）						予算事業名		市民文化センター管理運営経費			
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	結城市民文化センターの設置及び管理に関する条例			
				10	05	07	0502	経常経費					
総合計画体系		4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文						事業の区分		主要事業			
		4-4個性豊かな芸術文化の創造（芸術・文化）											
		①芸術文化を楽しむ機会の充実						担当課係等		生涯学習課			
1文化施設の整備・管理・運営													
事業期間		継続（平成 3年度～ 年度）											
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】					
市民の文化創作活動の拠点として、利用しやすい環境を維持し、利用件数や利用者を増加することで、本市の文化振興の発展を目指す。また、開館より28年が経過したため、老朽化した部分について計画的な改修及び施設機器の更新を行い、安全性と施設機能維持を図る。								市民文化センターの開館（H3年度）に伴い、事業化が図られた。					
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】					
○指定管理者へ施設の管理運営を委託 ・（公財）結城市文化・スポーツ振興事業団を指定管理者として、管理運営を委託する。基本協定（5年）を結び、毎年度、年度協定を締結している。 ○火災保険の加入や小規模修繕の実施 ・火災保険及び小規模修繕費を設置者として予算措置。 ○老朽化備品の購入 ・設備備品や什器類の更新（購入） ○施設改修工事の実施 ・平成27年度に実施した改修調査報告書を基礎資料として、施設改修の方針・実行計画の検討、立案を行い計画的な改修工事を実施していく。								・市民文化センター「アクロス」 ・施設利用者（市民含む）					
								【事業をとりまく環境の変化】 本施設の開館を契機として、市民の文化活動に対する体制整備や活動の活性化が進展している。H18年度より、指定管理者制度を導入し、コスト効率や運用の効率化を図っているが、施設の老朽化に伴う改修経費や維持管理コストの増加が懸案事項であり、他自治体においても同様の状況である。					
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】					
・修繕費 ・火災保険 ・指定管理(5年目) ・工事請負費 ・備品購入費 ※天井の改修は総務課での調査結果（進行中）によるため、計上していない。				・修繕費 ・火災保険 ・指定管理(1年目) ・工事請負費 ・備品購入費 ※外壁の改修は令和2年度実施の特定建築物調査結果によるため、計上していない。				・修繕費 ・火災保険 ・指定管理(2年目) ・工事請負費 ・備品購入費					
■事業費													
				H30年度		R01年度							
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0						
	県		支	出	金	0	0						
	地		方		債	0	0						
	そ		の		他	0	0						
	一		般	財	源	74,877	80,218						
歳入計（千円）				74,877		80,218							
歳 出 内 訳	節（番号＋名称）			金額（千円）		金額（千円）							
	11	需用費		2,916		2,500							
	12	役務費		117		121							
	13	委託料		66,757		75,374							
	15	工事請負費		2,700		1,581							
	18	備品購入費		2,387		642							
歳出計（千円）（A）				74,877		80,218							
伸び率（％）						7.13							
備考	総合計画125ページ 予算書177ページ												

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	施設・設備の改修率	%	目標	47.00	48.00	29.20
			実績	47.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	利用者数	人	目標	190,000.00	190,000.00	190,000.00
			実績	172,329.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	・市の文化創作活動の拠点として本施設の必要性が高い。 ・開館後28年が経過し老朽化が著しく、安全かつ有効に利用するために改修の必要性が高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	市の公共施設であるため、市が実施すべき事業である。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	・管理運営を指定管理者制度とし続けるかどうか検討が必要。 ・施設の老朽化が進んでいるが、改修が追いつくか、市の財政状況を踏まえた検討が必要。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	・指定管理者による自主事業、共催事業は市民の要望に応じているため、一部採算の合わない事業を実施している。 ・施設の老朽化に伴い、改修をしても、新たに改修箇所が発見されるため、効率が悪い。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	概ね広く便益を提供している。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	・効率的で効果的な施設の管理運営がなされている。 ・限られた予算の中での改修には限界があり、なかなか成果が上がらない。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	・管理運営は概ね目標水準に達している。 ・改修は十分な進捗とは言えない。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
施設の運営は良好と言えるが、施設の老朽化が著しく年々改修が増える一方で財政面での課題が大きい。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
耐用年数による施設の在り方を検討したうえで、安全性や緊急性を考慮し優先順位を付け改修を進める。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 施設の老朽化とともに、年々改修の必要性が高まってきており、改修の先送りによる費用増大を招かないよう、市の財政状況を勘案しつつ計画的な修繕を実施していく。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 財政状況と可能な限り調和を図りながら進める。